

平成26年度文部科学省委託事業
「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

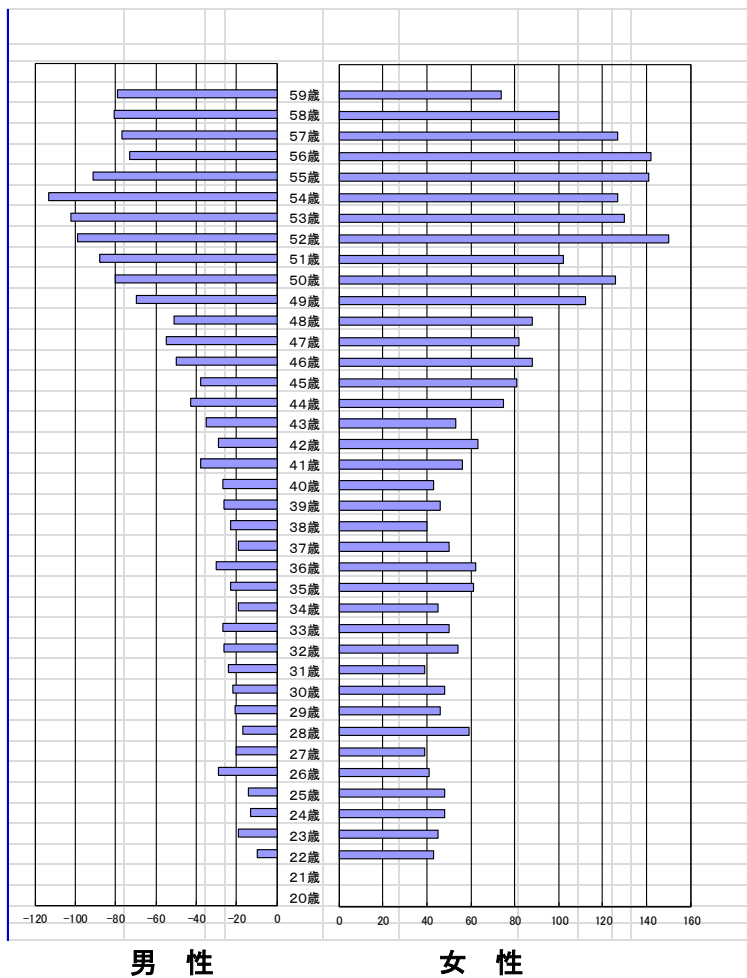
初任者研修の抜本的な改革に関する研究
成果報告書

平成27年3月

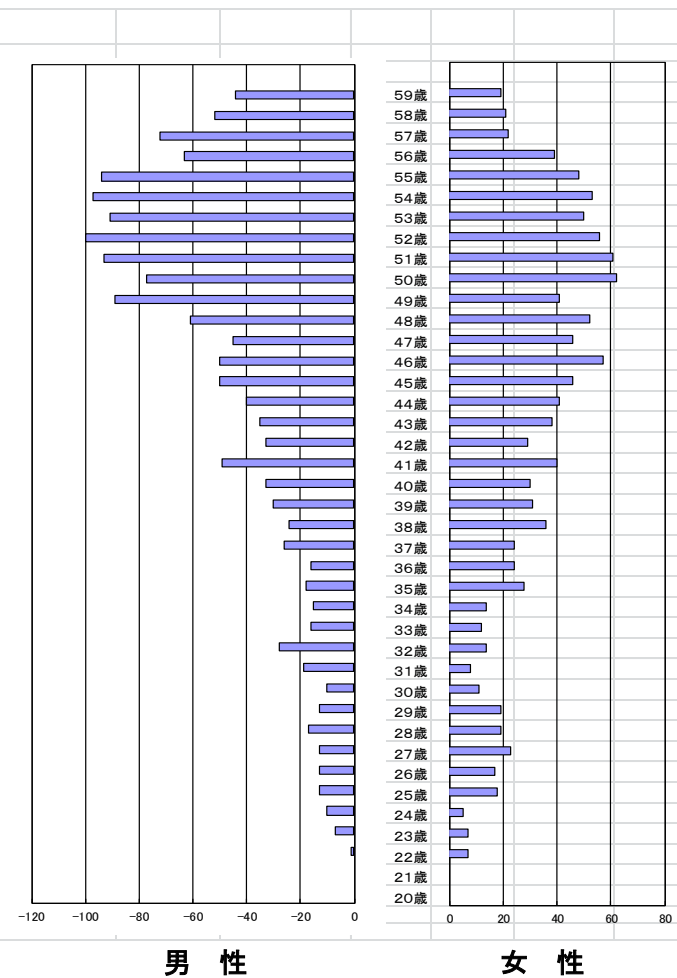
山 口 県 教 育 委 員 会

1 初任者の現状と課題

(1) 26年度教員年齢構成から
小学校(4,525人)

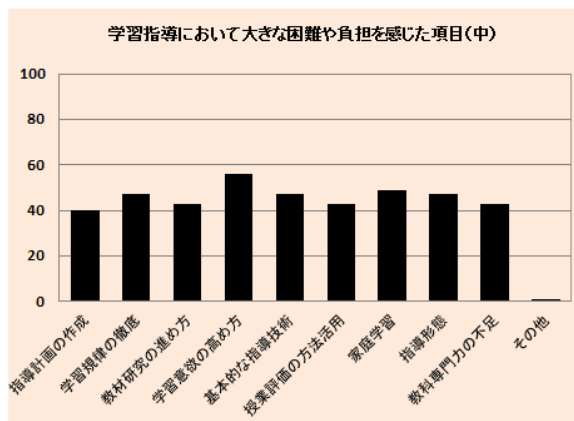
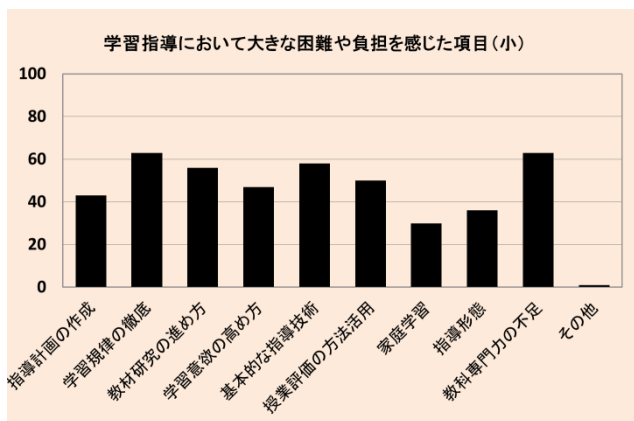


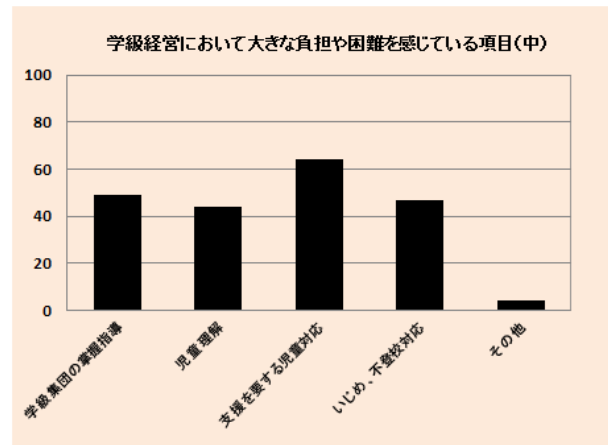
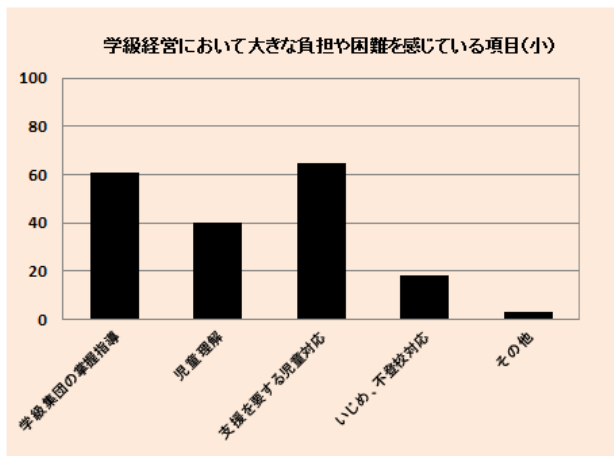
中学校(2,725人)



今後10年間で、現教職員の40パーセントが退職する見込みである。それに伴い、小中学校とも新規採用者数が年々増加することが予想される。そこで、早急に教員の資質を向上させる必要があり、中でも若手人材育成が喫緊の課題であるという認識から、若手教員(初任から3年次まで)の育成環境・研修内容の充実、指導体制の整備を図っていかねばならないと考えている。

(2) 初任者アンケート結果から
調査対象者 初任者研修受講者 小学校147名 中学校81名(複数回答)





- 小中学校とも学習指導において困難や負担を感じている初任者が多い。
- 小学校では、学習規律を徹底させることの難しさ、教科専門力の不足を感じている。
- 中学校では、学習意欲を喚起し、主体的な学習活動を展開することの難しさを感じている。
- 特別な支援を要する児童・生徒の対応に苦慮している初任者が多い。

保護者対応や研修記録の整理、他の教職員との関わりにおいて負担や難しさを感じている初任者はいるが、その割合は低い。毎日の授業実践において、多くの者が困り感を感じていることから、授業力向上に向けた研修の充実を図り、授業がきちんとできるようになることが、初任者の精神的な負担軽減につながるものと考えられる。また、小・中学校とも特別支援教育に関する研修を充実させることで、個に応じた支援のあり方について学ばせ、自分の授業実践に生かしていく必要がある。

2 調査研究の目的

- 組織的な初任者育成に向けた取組を通して、校内研修の活性・充実に努め、教職員一人ひとりの資質向上を図る。
- 学校全体で初任者を育成する育成環境のあり方について研究を深める。
- 初任者の負担軽減を図るための、効果的・効率的な研修内容、実施方法について検証する。

3 本県重点取組事項

小学校

- 複数の教科での教科指導の充実（授業交換による教材研究の時間の確保、充実）
- 多学年（1年～6年）に関わらせることによる教科指導における専門性の向上

中学校

- 生徒による毎時間の授業評価の実践
- 板書型指導案による授業づくり
- 特別支援教育に関する研修の充実

4 **調査研究の具体的な取組方法**

(1) **初任者育成担当者会議**

- 年間3回（6月、11月、2月）実施
- 出席者：調査研究校校長、指導教員、各市教育委員会指導主事
- 協議内容
 - ・各校初任者の育成状況についての情報交換
 - ・初任者育成における校内体制、育成環境、校内研修のあり方
 - ・1年間の取組の成果と課題の検証

(2) **1000日プラン担当者会議**

- 市教育委員会ごとに年間2回実施
- 出席者：調査研究校指導教員、初任から3年次までの教員が在籍している学校において、人材育成の中核を担う教員、各市教育委員会指導主事、山口県教育委員会指導主事
- 協議内容
 - ・調査研究校の取組についての共通理解
 - ・若手教員育成における現状と課題
(本人の意欲、指導教員のかかわり、学校組織、育成環境、研修体制等)
 - ・対応策
(指導内容の充実、研修意欲を高めるための工夫、効果的な研修内容)

(3) **1000日プラン実践研修会**

- 市教育委員会ごとに年間2回実施
- 出席者：初任から3年次までの教員、各市教育委員会指導主事
- 講義及び協議内容
 - ・板書型指導案の書き方
 - ・自己課題解決に向けて(学習指導、生徒指導)

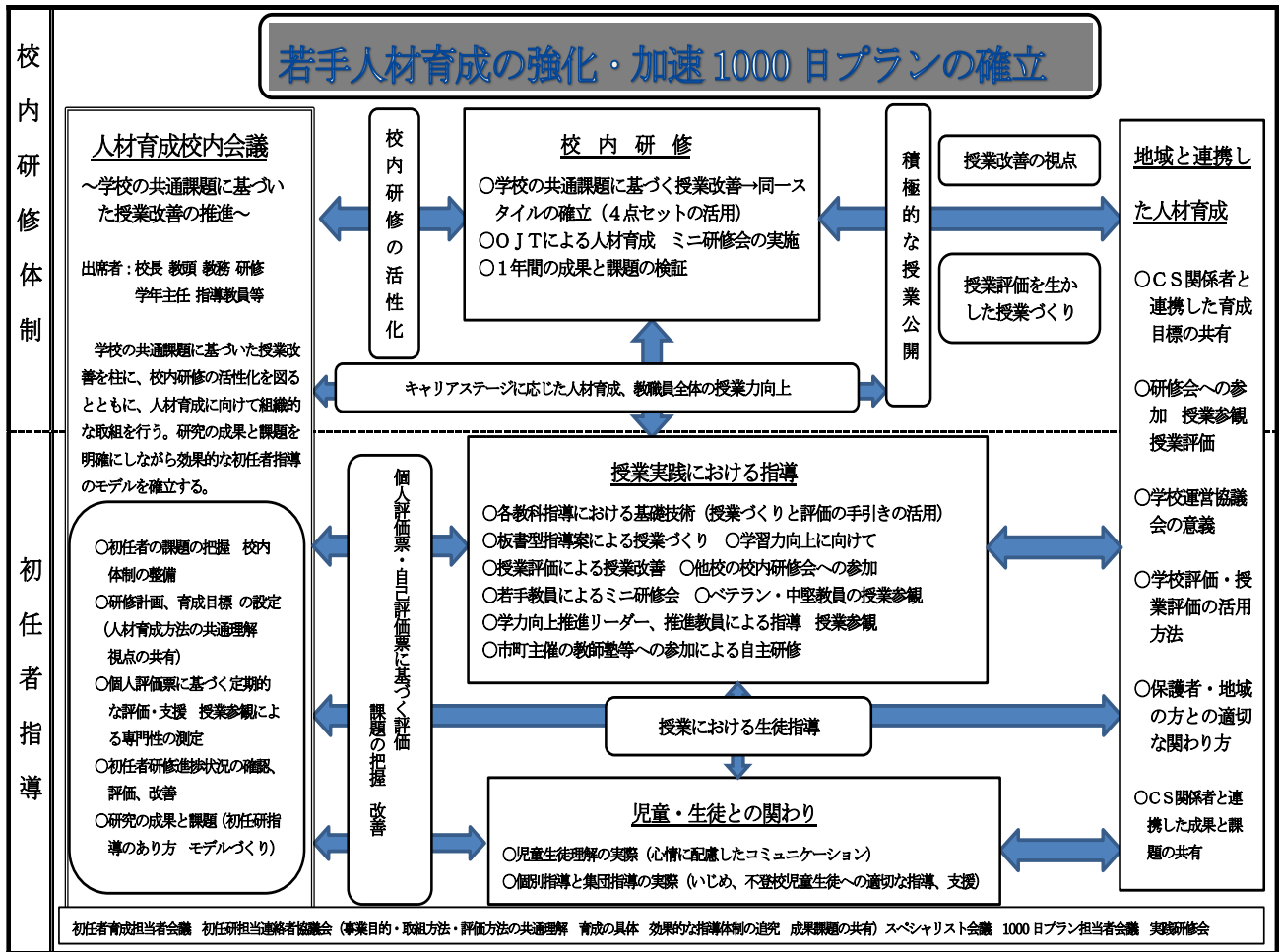
(4) **初任者育成連絡協議会**

- 出席者：今年度初任者が配置された学校の指導教員（180名）
- 内容
 - ・調査研究事業における成果と課題
 - ・調査研究校による事例発表（小学校1校 中学校1校）
 - ・山口大学教育学部教授による講演（若手教員の人材育成）

(5) **各校における取組**

- 調査研究校：小学校7校 中学校7校 計14校
調査研究校の取組を全県に広めるため、地域ごと（7地域）に研究校を指定
- 初任者：各校に2名を配置（担任1名、副担任1名）
- 加配教員：自校の初任者2名を指導する。校内において人材育成における中核を担うとともに、初任者研修のコーディネート役を務める。

調査研究の実施概要



①人材育成校内会議の定期的な開催

- 出席者：校長、教頭、教務主任、研修主任、学年主任、指導教員、学校運営協議会委員等
- 協議内容
 - ・ 初任者の課題、育成目標、育成方法の共通理解
 - ・ 人材育成プラン、研修計画の作成
 - ・ 個人評価票に基づく定期的な評価、指導・支援のあり方
 - ・ 初任者研修進捗状況の確認

②校内研修の充実

- 学習指導の基本資料（4点セット）の活用
- 板書型指導案による授業づくり
- 中堅・ベテラン教員の授業参観
- 児童・生徒の授業評価による授業改善
- 特別支援教育に関する研修
- 若手教員によるミニ研修会の実施

③地域と連携した人材育成

- コミュニティ・スクールを活用した人材育成
 - ・ 定期的な授業参観、授業評価
 - ・ ユニット型研修会への参加

**コミュニティ・スクールの仕組みを活かした
若手人材育成のためのユニット型研修組織編成(例)**

校種	グループ	メンター 相談役	サポーター (チーム・リーダー) 企画・調整役	1～3年目教員	臨時的任用教員 (常勤)	養教 学栄 事務	学校運営 協議会委員	アドバイザー 主任クラス 関係機関等
		ベテラン教員	中堅教員 (4年目～10年目)	若手教員				
中学校	A	数学教員	国語教員	数学教員	英語教員	事務職員	Aさん、Bさん	教務主任 研修主任 教育相談担当 特別支援担当 ※教委担当主事等
	B	保健体育教員	理科教員	社会教員	美術教員	養護教諭	Cさん、Dさん	
C 小学校	低学年部	学年主任(1-1)	2年1組担任	1年2組担任	2年2組	栄養教諭	Eさん、Fさん	教務主任 ※推進リーダー ※教委担当主事等
	中学年部	学年主任(4-1)	学年主任(3-1)	4年2組担任 3年2組担任	4年3組	事務職員	Gさん、Hさん	
D 小学校	6年部	学年主任(6-1)	6年2組担任	6年3組担任 6年5組担任	6年4組	養護教諭	Iさん、Jさん	教務主任 ※推進リーダー ※教委担当主事等
※	ユニット別に研修を計画する。サポーターが中心となって連絡調整を行う。							
※	学校運営協議会委員は授業参観だけでなく、授業評価や研究協議の場にも加わってもらう。							

5 取組の成果と課題 ○成果 ●課題

(1) 初任者研修の実施体制について

① 学校全体で初任者を指導する体制の整備状況及び意識の醸成人材育成校内会議の定期的な開催

○課題、育成目標、具体的な指導方法を共有することで、初任者指導に向けた全教職員の意識の醸成が図られ、協力体制が強化された。

全教職員による授業公開・学級公開

○積極的な授業公開を行うことにより、初任者を育てながら自らの授業力や教師力の向上をめざそうという意識をもった教員が増えてきた。

●初任者の育成環境を考えた場合、校内研修の充実、一人ひとりの教員の授業改善に向けた意識改革、授業力向上が必要となる。今後も、校内研修の活性・充実に努め、他の教職員の姿から学ぶことができるような育成環境の整備を図っていく必要がある。

初任者評価について

○評価の視点を共有することで、全教職員が共通のものさしをもって継続的に初任者指導にあたることができ、評価結果を具体的な指導に生かすことができた。

別紙様式1 初任者育成に係る個人評価票(1年次)

評価者用

勤務校		氏名	
年度	担当学年	校務分掌	担当教科等
26			

項目	区分	視 点 評価の観点 4:優れている 3:よい 2:改善が必要 1:課題がある	評価		
			6月	10月	最終
全般	職責の自覚	① 児童生徒に対して深い愛情をもって接し、教員としての使命・誇りを持ち、謙虚さ・素直さ・誠実さを忘れず、専門性を高めようと努力できる。			
学習指導	授業計画	② 教材分析を行い、教材、教具を工夫するなど、児童生徒の実態に応じて興味・関心を引き出す準備ができる。			
		③ 全員参加の授業づくりに努めるとともに、個別指導やグループ別指導など指導方法を工夫し、個に応じた指導の充実を図ることができる。			
	授業の実施	④ 授業における基本的な学習態度を身に付けさせるよう、学習規律の確立に向けた適切な指導ができる。			
		⑤ 授業のねらいを明確に示し、授業の流れをまとめ、内容理解を支援できるよう、板書等の基本的な指導技術を身に付ける努力ができる。			
		⑥ 児童生徒の思考を活性化させ、発言を促すような発問の工夫ができる。			
	評価	⑦ 評価を、今後の授業改善や児童生徒の学習意欲の向上に生かせる。			
家庭学習	⑧ 次時の学習につながる家庭学習を仕組み、家庭学習ノートを活用するなど、児童生徒の自主的な学習態度の育成に取り組める。				
生徒指導	児童・生徒理解	⑨ 笑顔と温かい声かけで児童生徒に接し、心情に配慮したコミュニケーションに努めることができる。			
		⑩ 児童生徒が正すべき点には毅然とした態度で接し、的確な指導に努めることができる。			
	その他	⑪ いじめなどの問題行動等の指導、不登校や障害のある児童生徒へのきめ細かな支援などに積極的に取り組むことができる。			
学級経営・その他	学級経営	⑫ 基本的な生活習慣の確立に向け、日常生活(清掃、給食、朝・帰りの会、健康観察、休み時間の過ごし方など)に係る指導に取り組むことができる。			
	家庭・地域等との連携	⑬ 外部機関や保護者・地域等との対応が適切であり、言葉遣い等にも気を付けることができる。			
	その他	⑭ 日々の生活における健康・安全に十分留意した指導を行うことができる。			
		⑮ 他の教職員と連携しながら、教育活動を進めることができる。			
			0	0	0

所 見(成長した面や課題を端的に)

6月	
11月	
1月	

②初任者に対する負担軽減の方策

小学校における教科担任制（授業交換）

○授業交換を実施することで、教材研究時間の確保・充実につながった。同じ授業を数回実施することで、反省を実践に生かすことができ、授業力向上につながっている。

小学校副担任による多学年における教科指導

○副担任は、時間的に余裕があるため、教材研究、事務処理にゆとりがあり、授業参観等も頻繁に行うことができた。

○全学年の複数の教科指導を経験できたことで、発達段階に応じた支援のあり方や教科の系統性について学ぶことができ、来年度に対する不安感が薄らいでいる。

●副担任は、どの学年にも所属していないことで、不安感を常にもっている。また、自己有用感・自己存在感を高めにくい。また、生徒指導的な技術を学ぶ機会が少ない。

校務分掌の軽減

○中堅、ベテラン教員と複数、ペアで校務を担当させることで負担が軽減され、精神的なゆとりが生まれている。また、仕事の手順や方法を先輩教員から具体的に学ぶことができ、自信をもって校務に取り組めるようになってきた。

中学校における支援体制

○学級担任には、学年主任や指導教員を副担任に据え、相談支援体制の充実を図ったことで、積極的な生徒指導の必要性や重要性に気づくことができ、自分の学級経営に役立てている。

○副担任は、指導教員をはじめベテラン教員が担任するクラスにおいて、学級経営のあり方や道徳の指導方法について具体的に学ぶことができています。

●副担任は、個々の生徒理解、学級の状況把握が不十分なため、生徒指導面で戸惑いが見られる。生徒との人間関係づくり、学級集団の実態把握に関する研修を充実させる必要がある。

③加配措置による初任者の状況把握

○指導教員が、日常的に校内で勤務することにより、初任者の状況をきめ細かく把握することができ、適切な指導・支援がなされている。そのことが、日常的に「相談できる」という初任者の精神的な安心感を生んでいる。

○指導教員が、初任者と関わる他の教員と日常的に情報交換ができ、様々な視点から初任者育成に取り組むことができています。

④その他（2年次、3年次教員等との関わり）

○初任者と若手教員との互見授業、ミニ研修会の実施により、学級経営や学習指導など実践交流できる場が設定され、気軽に日頃の悩みを相談できる雰囲気が出てきている。

(2) 研修等の内容について

①授業力向上に向けた研修の充実

学習指導の基本資料（4点セット）を活用した授業づくり

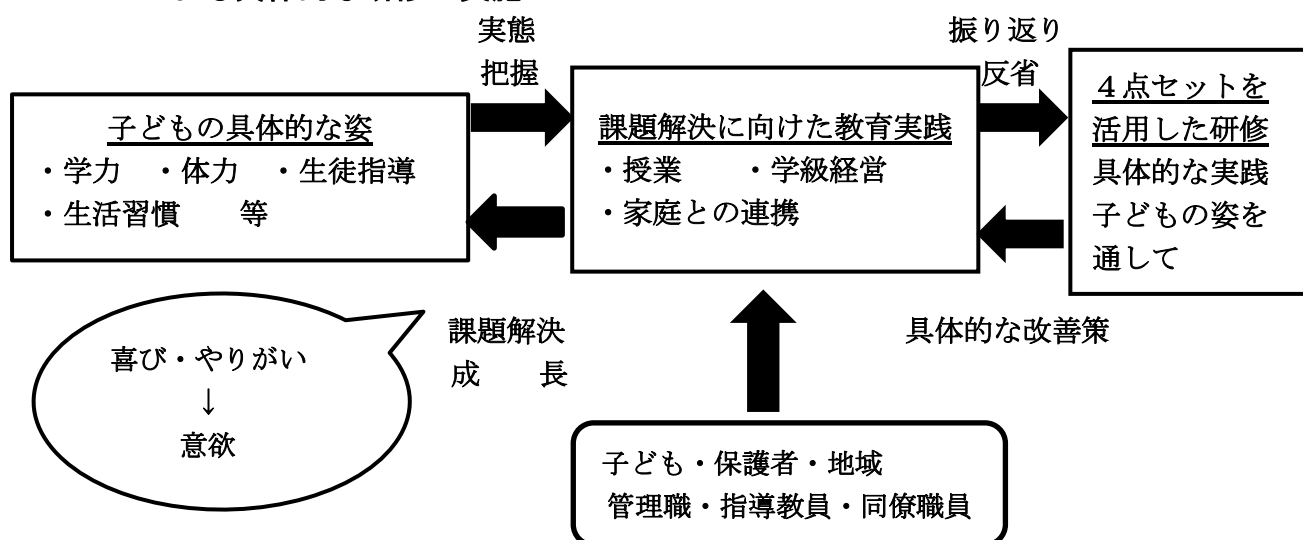
○資料に基づいた具体的な研修が展開でき、日々の実践に役立てることができた。

資料に沿った研修を進めることにより、初任者も指導教員も同じ視点で研修を進めることができた。子どもの具体的な姿に基づいた研修を実施していくことが必要である。

○板書型指導案による授業づくりに努め、指導案をもとにした授業研究を実施することで、授業力が少しずつ身に付いてきている。

数学科 指導案	【板書計画】	
12月17日(水) 4校時 授業者 浅賀亮史 教室 2年4組	<p>めあて 三角形の合同条件を考えよう。 学習課題 三角形の合同条件を見つけることができる。</p>	
学習材 「三角形の合同条件」		
めあて 三角形の合同条件を考えよう。	<p>生徒の考えが掲示されます。</p>	
学習課題 三角形の合同条件を見つけることができる。	<p>【本時の流れと主な発問】</p> <p>①前時の復習として、「合同」の確認と「合同な図形の性質」を確認する。 ②三角形の何が分かれば、合同な三角形がかけられるか確認する。 (予想される生徒の反応) 辺の長さ、角の大きさ、面積、高さ、底辺 ※問題については、印刷したものを生徒に配布し、記入させる。 ③使っていい道具、かくときの決まりを確認する。 ※なるべく少ない情報でかき、使った情報は図に書き込ませる。 ④自力解決。(5分) ▲全くかけない生徒には、まず3cmの1辺をかかせる。 ※道具のない生徒には、定規は貸し出す。 ⑤4人組のグループで話し合いをする。(5分) ※いくつかの班に発表用の紙に、かかせる。</p>	
観察のポイント ・1つでも自分で見つけることで、印象に残り、覚えることができるようにしていく。 ・⑤の場面で、班別の話し合い活動を取り入れ、生徒同士で見つけられるようにしていく。	<p>⑥書き方を発表させる。 ※書き方を口頭で説明させ、教員が実演する。 ⑦同じものを見つける。 (⑧角1つ、辺2つでもかけるか、生徒に問う。) ※時間があれば、考えさせる。 ⑧本時のまとめをする。 ※三角形の合同条件を覚えることを伝える。</p>	
	<p>【まとめ】 三角形の合同条件 ①3組の辺がそれぞれ等しい。 ②2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい。 ③1組の辺とその両側の角がそれぞれ等しい。</p>	

PDCAによる具体的な研修の実施



毎時間の生徒による授業評価

○毎時間の授業評価の分析を通して、常に生徒と向き合う姿勢を習慣づけることができた。

○各項目の評価点や疑問、感想などをもとに自分の授業を振り返ることにより、授業改善の視点を見つけ、次時の実践に生かすことができた。

毎時間の授業評価表

数学科

授業を振り返って / 年 / 組 / 番 氏名()

◎よくあてはまる ○ややあてはまる △いいえ

共通の項目		1	2	3	4	5	疑問や感想など
月	学習内容	授業の内容がわかった	先生はていねいに教えてくれた	板書がわかりやすかった	授業が楽しかった	発言する機会があった	
5/14	乗法の計算	◎	◎	◎	◎	◎	今日やったことを忘れないようにしたいです。
5/16	除法の計算	◎	◎	◎	◎	◎	早く計算できるようにがんばりたい。 <u>わからない時、かか数にすることが多い。</u>
5/19	逆数	◎	◎	◎	◎	◎	小数の逆数をもっとまろがえたいようにしたいです。 <u>たぶんしるべいの逆数</u>
5/20	除法(逆数をかけ算)	◎	◎	◎	◎	◎	除法は、わる数を逆数にしてかけることがわかりました。
5/22	乗除の計算	◎	◎	◎	◎	◎	わり算をかけ算になおしたあとに、逆数をかけることをおぼわらないようにしたい。
5/26	加減乗除	◎	◎	◎	◎	◎	よく、符号をまちがえたりテストではよく注意したいと思います。pg
5/27	総復習	◎	◎	◎	◎	◎	C問題までまろがえているところがあったので、がんばろうと思っていま

②ユニット型研修の推進（地域と連携した初任者育成）



学校運営協議会委員さんも参観

授業の質の向上

- ・ 生徒の目線
- ・ 保護者の目線
- ・ 地域の目線

を授業に反映

- 校内研修に保護者・地域が関わることで、中堅・ベテランの授業改善に対する意識改革、学校全体の人材育成が図られる。
- 校内研修の活性・充実に伴う授業改善により児童・生徒の学力向上が図られ、子どもの成長、安定が初任者育成においてよい効果をもたらす。

(3) その他

①学校の選定について

本県の現状と課題を考えれば、今後も初任者の育成環境整備を重点的に図っていかねばならない。初任者育成に適した育成環境とは、次の3点が主に考えられる。

- ・課題解決に向けた全教職員による組織的な取組がなされている学校。
- ・授業改善に対して前向きに取り組まれている学校。
- ・地域と連携した人材育成がなされている学校

管理職のリーダーシップのもと、全教職員がチームとして協働し、お互いに向上するという意識をもって課題解決に向け取り組んでいる学校に初任者を継続的に配置していきたいと考えている。

②2年次、3年次教員との関わり

市教育委員会ごとに若手教員を集め、学習指導、生徒指導など、実践力向上に向けた研修会を実施している。

また、学力向上推進リーダーが配置されている学校で定期的に研修会を実施し、授業力向上に向けた取組を進めている。

初任者同士の連携が図られ、日頃の悩みを気軽に相談するなど、よい関係が構築されてきている。

6 来年度に向けた取組

人材育成ユニットを活用した初任者育成モデルの確立

—山口県版初任者育成モデルの共有—

- CS（コミュニティ・スクール）を活用した人材育成のあり方
ユニット型研修の推進
- 1年次と2年次の初任者の比較・検証による研修体制の見直し
- 小学校における教科担任制（授業交換）の工夫
- 複数の学年に関わらせることによる教科指導における専門性の検証（小副担）
- 中学校における毎時間の授業評価（成果の検証）
- 中学校における特別支援教育に関する研修

山口県が地域教育力日本一の実現に向け、先進的に取り組んでいるコミュニティ・スクールを活用した人材育成に取り組み、その成果と課題を検証しながら山口県版初任者育成モデルを作成していきたいと考えている。

